

「子どもの主体性を育てる保育」Q&A 2018年11月発行

末広保育園では「子どもの主体性を育てる保育」を実践しております。保護者のみなさまにはご理解・ご協力をいただきありがとうございます。今回は、保育参加で保護者の方から頂いた保育に関するご質問にこの場をかりてお答えいたします。



異年齢（縦割り）の時間が多く感じます。

少子化の影響により異年齢の子どもたち同士の関わりが減っている今、異年齢保育により多様な人間関係の形成や自我の発達など、子どもたちにとって大きなプラスになっています。子どもたちはお互いの関わりの中で学びあい、多くのことを吸収します。「人との関係を築く」「違いを受け入れる」ことを学んでいきます。生きていくうえで大切なことです。少し年上のお兄さんお姉さんに憧れてチャレンジしたり、年下の子におもちゃを譲ってあげたり…。異年齢保育では子どもが自ら「こうしたい！」と行って行動するきっかけが沢山生まれます。子どもたちが自発的・意欲的に友達との関わりが持てるよう、保育士が環境づくりや声掛け等サポートします。また、その年齢にあった保育は、適宜年齢別クラスでの活動を取り入れています。



ランチルームでひとりで食べている子もいたので気になりました。

ランチルームをみているとひとりで食べている子ときどきいます。しかし、ずっとひとりという訳ではありません。先に食べ終わった子が遊びに行ったのでひとりになったり、ひとりで来たけど後から来た子と一緒に食べたり、今日は遊び最優先の日ですぐに食べたくてひとりだったり…。クラスで毎日同じ席で食べていたときには考えられなかった、多様なランチタイムが日々繰り広げられています。たとえひとりで食べている時間があっても、一緒に食べる友達がいないわけでは決してありません。今年導入したばかりのランチルームですが、毎日違う表情をみせるお昼の時間に保育士もほほえましく見守っています。



小さいケンカが多く感じました。顔に手が行くのが心配でした。

保育園は、異年齢の子どもたちが集団で生活する場です。そこでの小さなケンカの経験の繰り返しで、「人と関わる力」「言葉で伝える力」が育っていきます。友だちと話し合ったり、感情をぶつけあったりを経験しながら、葛藤を繰り返し、一緒に取り組むことの楽しさを感じてほしい、と考えています。ケンカの時こそ育つとき、自分の思いを言う時、相手の思いに気づく時です。子ども同士で解決できるように、見守っています。

今回は以上児クラスの異年齢保育についてのご質問を中心にお答えしました。何かお気づきやご質問等ございましたら、お気軽に保育士にお話してください。